

鉄砲洲神社素読論語 解説  
(平成 24 年 10 月 12 日)

【二二】子 匡に畏す。顔淵 後れたり。子曰く、吾 女を以て死したりと為せりと。曰く、子 在す。回 何ぞ敢て死せんと。

孔子は以前、匡で襲われた事があり、顔淵がはぐれてしまい遅れたことがありました。孔子が言うには、「お前はもうとっくに死んだのだろう」と思いこんでいた。顔淵は、「先生が生きておられるのだから、どうして私が死んだりするもののでしょうか。私は決して死にはしません」と答えました。

【二三】季子然 問う、仲由・冉求は大臣と謂うべきかと。子曰く、吾 子を以て異なるを之れ問うと為せり。曾 ち由と求とを之れ問うか。所謂大臣は、道を以て君に事え。付かなれば則ち止む。今 由と求とは、具臣と謂うべしと。曰く、然らば則ち之に従わん者かと。子曰く、父と君とを弑せんには、亦 従わざるなりと。

季子然が「仲由と冉求は大臣でしょうか」と聞きました。孔子が答えて言うには、「もっと違う事を聞くであろうと思ったが、貴方は、由やら求のことを聞くものかね。大臣というものは、主君が正しい道を行かない場合は、当然辞任するものである。あなたが聞いた由と求は数合わせの家臣であると言ってもよいでしょう」季子然が言いました「主人の意向に従うというだけのもののでしょうか」孔子が答えて言うには「二人は家臣としての道はよく知っています。父親と主君を殺す様な事はしないものです。君主が無道の道を進むようであれば、それは従うものではありません。二人は良心に従って進むでしょう」

「由と求とは、具臣と謂うべしと」とありましたが、数合わせの臣で並んでいるだけという事で、今をみますと民衆党は数合わせの人達が並んで残っています。ちょっと形を変えるとバタバタと人がいなくなる。主人の意向に従っているかと言えば、そうではなく自分たちが選挙に当選すれば良い事だけを考えています。民主党にいる理由は何だろうかと人間としての道を知っているのかどうかと思えば、民主党、自民党、その他の党の人に聞いてみると、正しい人としての道を進んでいると答えられる人は、どれくらいいるのかなとここを読んで想起いたします。

【二四】子路 子羔をして費の宰為らしむ。子曰く、夫の人の子を賊わんと。子路曰く、民人有り、社稷有り。何ぞ必ずしも書を読みて然る後 学ぶと為さんと。子曰く、是の故

に夫の佞者を悪むと。

子路が子羔を費の代官に推薦し任命した。孔子が言うには、「子羔は学問が大成しないだろう」子路が言うには「人民がいるし、土地の神社、穀物の神そういう神社がある。本を読む事ばかりが学問と言えましょうか」と。孔子は「口を出す人間というのは、あまり良いものではない」と言っています。

あまり学問が進んでいない内に然るべきポストに就くのは、あまり良いものではありません。もう少し勉強してから就くべきです。

吉田茂が色々大臣のポストに就けた中で、ある友人が「大臣のポストに就けてくれ」と言ってきましたが、吉田茂は、「君とは親しい友人関係ではあるが、大臣にはそれなりの見識を持っている人間を就けねばならない。ただ友人というだけで君を大臣に就ける訳にはいかない。もう少し君は勉強をしなければいけない」という話が残っています。